

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	保育内容（造形表現）		
担当者(Instructors)	新實 広記	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
領域「表現（造形）」のねらい及び内容を理解する。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を修得し身につける。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	幼児の日常生活における造形表現の意味について概説し、具体的な保育実践のあり方と指導法に関して、以下の内容を実践的に学習する。（１）教育要領（幼稚園）、保育指針（保育所）「表現」に置ける造形活動の位置づけ。（２）子どもの絵画表現の発達とその指導のあり方。（３）子どもの制作表現の発達とその指導のあり方。（４）色、形、イメージなどの造形感覚を高めるための実践演習。以上の学習の中で常に「生きる力」の基本の一つとなる観る力、考える力などを養成する。以上の内容を演習形式で行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	幼稚園教育要領における領域「表現（造形）」のねらい及びその意味	授業の概要と目的、受講にあたっての注意事項を説明する。	☐
第2回	発達段階に即した造形表現指導と情報機器及び教材の活用（身体で描く）	子どもの絵画表現の発達を踏まえたフィンガーペインティングの技法とその指導の方法を学ぶ。	☐
第3回	発達段階に即した造形表現指導と情報機器及び教材の活用（色で遊ぶ）	子どもの絵画表現の発達を踏まえた色遊びの技法とその指導の方法を学ぶ。	☐
第4回	発達段階に即した造形表現指導と情報機器及び教材の活用（身近な素材で遊ぶ）	様々な身近な素材を使って造形遊びを行いそれぞれの素材の特性を理解し、その指導の方法を学ぶ。	☐
第5回	発達段階に即した造形表現指導と情報機器及び教材の活用（イメージを楽しむ）	段ボール素材の特性を生かした大型作品の製作をグループで行い共同製作の楽しみを味わいその指導の方法を学ぶ。	☐
第6回	幼児造形指導の計画とカリキュラムマネジメント	子どもと自然の関わりとして光や影を題材にした造形活動を行いその指導の方法を学ぶ。	☐
第7回	指導案の作成と方法、幼児造形の評価の考え方	子どもと自然の関わりとして木片素材を使用した造形活動を行いその指導の方法を学ぶ。	☐
第8回	創造性を豊かにする造形遊び「模擬保育の計画」	子どもと自然の関わりとして粘土素材を使用した造形活動を行いその指導の方法を学ぶ。	☐
第9回	創造性を豊かにする造形遊び「模擬保育指導案の作成」	雑誌や包装紙、柄布などからコラージュを行うための素材を収集する楽しみを味わいその指導の方法を学ぶ。	☐
第10回	「模擬保育実践と振り返り」（身体で描く）	前回収集したコラージュ素材をもとに貼付けを行いコラージュの楽しみを味わいその指導の方法を学ぶ。	☐
第11回	「模擬保育実践と振り返り」（色で遊ぶ）	模擬保育で行う題材を決め、ねらい、対象年齢、用具、材料などの指導計画を行う。	☐
第12回	「模擬保育実践と振り返り」（身近な素材で遊ぶ）	目の前に子どもがいることをイメージしながら模擬保育を効果的に行う。	☐
第13回	「模擬保育実践と振り返り」（イメージを楽しむ）	模擬保育で製作した作品を効果的に教室に展示し環境を豊かにする。	☐
第14回	模擬保育の振り返りと課題の改善策を考える	模擬保育の振り返りを行い良かった点、反省点などを書き出し、意見交換を行う。	☐

第15回	造形表現指導のあり方と小学校との接続 (まとめ)	これまでの授業内容を振り返り幼児における造形表現の意義についてまとめるを行う。	□
------	-----------------------------	---	---

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details) 次回の授業を理解するために、毎回指示するキーワードとなる専門用語を予め調べておく。（2時間）授業内で学んだ内容を教科書や配布された資料で振り返り理解を深めておく。（2時間）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback) 各回の授業後に、授業理解を確認するためのレポート課題を実施する。レポートの内容を確認後、より理解を深められるような自主学習の方法の提案や資料を提供する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	履修者は、子どもの造形の理解を土台に、造形指導の理論と方法、技術を学び、指導実践に生かすことができるか。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	子どもの造形に関して、基礎的な表現方法を身に付け指導できるか。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	造形指導における課題に対して、主体的に授業に取り組み工夫できるか。

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 指導案の課題、授業内レポート。				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「幼稚園教育要領解説」（平成30年，文部科学省）	
2	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（平成30年，内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「幼稚園教育要領」（平成29年告示 文部科学省）	
2	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
3		
4		
5		